

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について	・<u>浸透している</u> ・概ね浸透している ・浸透していない
令和6年4月現在	課題 平方中学校区における小中一貫教育の取り組みが児童生徒に浸透している中、これまでの取組(6つのVA!)の内容を授業に一層反映させ、生徒の自己肯定感や学力を高めること。 各学校の転入職員へ浸透させること。

※計画書の見方

○「進捗状況」について ……A:検討中 B:着手済み C:令和5年度から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】 Plan(計画) 【D】 Do(具体的方策)

【C】 Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】 Action(今後の取組)

(1) 目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B <u>C</u> D	ブロックの共通する児童生徒像 ・自ら求め続け、考え、学び、表現できる児童生徒 ・自他を思いやり、互いに高め合える児童生徒 ・健康で、たくましく生き抜くことのできる児童生徒 ※詳細は別紙参照 学校独自の児童生徒像 ・自己肯定感・自己存在感の実現と夢の構築ができる生徒 ・主体的・協調的な学びの意欲と知恵への興味、関心を持つ生徒 ・自らの命を自ら守る姿勢と術がそなわっている生徒 ・異なった意見・考えを受け入れる多様性のある生徒 ・良好な人間関係の構築の心と術がそなわっている生徒
2	資質能力 身につけさせたい	A B <u>C</u> D	ブロックでつけさせたい資質・能力 (1)表現力…問題を解決するために、自ら進んで調べ、自分なりに考えたことを、友達に説明したり、主張したりできる力 (2)目標達成力…自己の課題の克服に向け粘り強く努力するとともに、目標を達成することで自己肯定感を高め、次の目標に向かうことのできる力 学校でつけさせたい資質・能力 ・伝えあいの中での「表現力」 ・学び合いの中での「知的好奇心」 ・育ちあいの中での「誇り」 ・思い合いの中での「思いやり」 ・頑張り合いの中での「最後までやり抜く力」
3	合同研修組織の設置	A B <u>C</u> D	合同研修組織部会名等 ・心力部会…多様な考えや価値観に触れ他者の考えを受け入れ、協働で課題に向かおうとする心、学びに向かう意欲、自己肯定感・自己有用感・所属感を高める方策を考え検証する。 ・学力部会…基礎学力の向上、物事や資料を多角的・多面的に捉え、論理的・批判的・創造的な思考を育むための方策を考え検証する ・行動力部会…学んだことを活用する力、多様な集団の中で自分の立場や役割を自覚し、行動する力、集団の中でも自分の考え等を表現できる力を育むための方策を考え検証する。

		<u>学校独自の部会名等</u> ・合同研修組織と同様の組織で取り組む。 ・心力部会…平方プライド賞、授業評価、3校合同のきまりを確認する。 ・学力部会…各教科における基礎学力定着コンクールの実施。つづれVA!、よみとれVA!、 つけれVA!、家庭学習の推進、定期テスト時の家庭での学習について確認する。 ・行動力部会…おぎなえVA、かたれVA!、ふれあえVA!、「生活のきまり」の推進、部活動交流、 出前授業、児童生徒間の交流、挨拶運動を行う。
--	--	---

(2)小中一貫教育7つの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・全ての授業担当者が「学習課題」「学び合い」「振り返り」の授業カードを活用して、授業の流れを明確にする。 ・全ての授業担当者が授業中における「学び合い」「高め合い」の場面を設定し、自分の考えを自分の言葉でまとめ、発表する機会を多くつくる。 ・全ての授業担当者が書く活動を適宜設定しながら、めあてや課題に正対したまとめ・振り返りを行う。
		A B C D	<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 越谷市学校生活アンケートにおいて、「1.授業では、「考えてみたい」、「やってみよう」と感じ、進んで課題に取り組めましたか」の項目に対する結果が比較的高かったのに対し、「14.授業の内容がわかりますか」の項目に対する結果に課題があった。授業に意欲的に取り組む生徒が多い一方で、「わかる」実感が伴っていない現状が見受けられる。昨年度、小中一貫夏季三校合同研修会において、講師を招き、「生徒が主体となる学習活動」に関する講演を聞く機会を設けた。今年度は、各教科の授業の中で「生徒が主体となる学習活動」を、課題設定、学び合い、まとめ・振り返りの各場面において設定することでさら「わくわく感」を喚起するとともに、特に「学び合い」の場面で生徒が課題を追究・解決する中で「わかった・できた」喜びを味わわせ、課題を解決していく。
			【P】 ①授業担当者による、生徒の個に応じた課題設定につながる導入の工夫。 ②職員同士の相互の授業参観の機会を充実させ、「わくわく感」のある授業の創出。 ③昨年度の成果を踏まえ、授業担当者による協働的な課題解決や対話による問題解決などの「学び合い・高め合い」の場面の適切な設定 ④まとめ・振り返りの場面において、書いてまとめることで「わかった・できた」を感じさせる工夫。 ⑤分かる授業に向けて、ICTの活用などを通してより主体的に活動する授業の工夫改善。 ⑥研究授業、公開授業の指導案に「学び合い・高め合い」の場面を確実に記載し、授業を行う。 ⑦「書くこと」について、各教科等で内容の質の向上を図り、さらなる学力向上に努める。 ⑧教科会を定期的開催し、指導方法を教科内で共有し、授業に工夫を加えていく。

4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	【D】 ① <u>授業担当者による、生徒の個に応じた課題設定につながる導入を工夫ができるよう、研修主任を中心に校内研修を充実させる。月に1度の教科会内で見合う。</u> ② <u>各教科における「わくわく感」のある授業を共有するために、年間5回(1,2学期に2回、3学期に1回)の授業公開週間を設定する。他者との協働により解決したり深めたりする中で、知的好奇心の高揚や新たな発見の喜びを味わう「わくわく感」のある授業を創出する。(校内研修、教科会)</u> ③ 授業担当者による協働的な課題解決や対話による問題解決などの「学び合い・高め合い」の場面の適切な設定する。(校内研修、教科会) ④ まとめ・振り返りの場面において、書いてまとめることで「わかった・できた」を感じさせるコメントを入れる。適切な授業担当者からのフィードバックを行い、次時へとつなげる。(通年) ⑤ 分かる授業に向けて、ICTの活用などを通してより主体的に活動する授業の工夫改善を図る。ロイロノート等の活用を校内で共有する。(通年) ⑥ 研究授業、公開授業の指導案に「学び合い・高め合い」の場面を確実に記載し、意識的に「学び合い・高め合い」の場面を設定し、普段の授業にも根付かせていく。(校内研修、教科会) ⑦ <u>「書くこと」について、全職員で引き続き共有し、各教科等で6つの視点のカードを使いながら内容の質の向上を図り、さらなる学力向上に努める。(通年)</u> ⑧ 教科会を定期的に開催し、指導方法を教科内で共有し、授業に工夫を加えていく。 ・教師がしゃべりすぎない。(相互観察) ・より思考させる授業(「つづれ VA!」の視点を生かした書く活動のより一層の推進・「よみとれ VA!」市販の書籍を活用) ・基礎基本の定着(小テストによる定着度の確認) ・効果的なICTの活用とお客さんをつくらない授業(相互観察) ・構造化された板書(授業後に撮影し、教科ごとのフォルダに蓄積) 【C】 ①越谷市授業改善・学校生活アンケート「1.授業では「考えてみたい」「やってみたい」と感じ、進んで授業に取り組んでいますか」における肯定的回答 ②定期的に教科会を開き、相互授業参観を実施 ③越谷市授業改善・学校生活アンケート「14.授業の内容がわかりますか」における肯定的な回答 ④生徒による学校評価「授業はわかりやすく工夫されている」における肯定的回答 ⑤1日2時間以上の、タブレット端末活用 ⑥全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査、越谷市検証テストにおける各教科のスコアにおいて、市の平均点以上を指標とする。 ⑦タブレット端末を活用し、授業動画や授業配信を小中間で行い、授業力を向上。 ⑧管理職による授業参観
5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・「学習課題」「学び合い」「振り返り」の授業カードを活用し、板書を構造化する。 ・「まとめ・振り返り」として自分の考えをノート、プリントに記述する。 <u>学校独自の内容・取組</u> A 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 昨年度は教科部会で協議を行い、学習カードが適切に活用され、板書の構造化を図った。そして構造化された板書を一目見ることで1時間の授業の流れがわかり、その板書を基に生徒本人が考えをまとめる場面設定を行った。自分の思考の流れをノートにまとめ、適切に教師がフィードバックを行う授業を心掛けた。また、各教科、「つづれ VA」の6つの視点(知識・理解・応用・分析・統合・評価)を生かした授業を展開した。引き続き、6つの視点を意識して書かせることにより、内容の充実を図る。 B 【P】 D ① 「学習課題」「学び合い」「振り返り」のカードの引き続きの活用による、板書の構造化、とノート指導の統一化。さらに6つの視点(知識・理解・応用・分析・統合・評価)カードを活用。 ② <u>「学び合い・高め合い」のよりよい授業がどのようなものか、校内研修で各教科の実践を共有し、共通理解を図る。</u> ③ <u>教科内、教科をまたいでの授業参観や管理職の授業参観による見取りにより、「学び合い・高め合い」が実施されているかを共有、確認する。(通年)</u>

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	【D】 ① 年度当初の小中一貫教育の研修で「学習課題」「学び合い」「振り返り」のカードの引き続きの活用することを確認し、板書の構造化とノート指導について確認した。板書をデータ化し、夏の研修の教科部会の資料として活用し、授業の工夫・改善を図る。授業終了後の板書と生徒のノートを撮りため、授業改善の手立てとする。(通年) A ② 6つの視点(知識・理解・応用・分析・統合・評価)カードを活用し、生徒に書く内容を意識させながら書かせ、思考を整理する。(通年) B ③ 「学び合い・高め合い」のよりよい授業がどのようなものか、板書をデータ化して蓄積する。撮りためたデータを、小中3校合同会議で授業改善の資料として活用する。(教科部会、校内研修) ④ 【C】 ① 生徒対象の校生活アンケート(学校評価)「授業はわかりやすく工夫されている」の項目で、A,B を選択した生徒の割合 D ② 職員対象の学校評価における「本校の課題克服や、生徒の学力をより高めるための授業展開を心がけていますか」の項目で肯定的回答をした職員 ③ ・職員対象の学校評価における「学び合い、高め合いを重視した授業づくりが実践されていますか」の項目 ・各教科独自のアンケート実施における、各教科に対する生徒の好意的評価において、「授業がわかる」等の肯定的な回答の割合(各教師の自己評価シートにおける達成指標から判断) ・管理職が行った授業参観。各授業担当者へのフィードバック。(通年)
6	生活規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など 3校共通「生活のきまり」の実施 ○あいさつ！返事！くつそろえ！ 進んで自分から 返事は「はい」 元気な声と笑顔 相手の目を見て ○移動・整列 静かに移動します 廊下、階段は右を歩きます 集まるときはきちんと整列します ○そうじ 清掃に適した服装、身支度 おしゃべりはせず無言清掃 すみずみまできれいにします A ○整理整頓 くつはいつもそろえます B 自分の机の周りはいつもきれいにします 道具や用具は元の場所へ戻します ④ 【C】 D 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ポストコロナということで、マスクを外すことを奨励してきたが、様々な感染症の拡大とこれまでの習慣から生徒はマスクを着用することが多かった。少しずつではあるが、校門でのあいさつの声が出るようになったり、丁寧にお辞儀をしたりする生徒が増えてきた。学校生活アンケートでも「あいさつ」の項目の数値が以前より上がっている。一方で、タブレット端末の使用法や SNS の利用法においては、生徒間でトラブルが発生したり、不適切な使用法が見られたりした。警察、教育センター等の関係機関と連携しながらネットトラブルの予防に努める

6	生活規律の共有化	【P】 ①学習、生活、部活動、タブレット使用に関する基本的な決まりや約束事の、全校での共有。 ②生徒指導部会における、教員間での約束事の確認や見直しと、今日的課題への対応方法検討。 ③あいさつ運動の計画、継続して実施し、気持ちのよいあいさつの意識づけ。 ④生徒主体による活動をととした環境整備による、内発的な規律遵守、美化意識の醸成。 【D】 ①生徒指導部で作成した「スタートライン」(学習や生活の決まり事)を用いて、令和 5 年度の課題を洗い出して重点項目を設定し、年度当初に行う読み合わせの中で、生活規律を意識させるとともに、1つ1つ丁寧に時間をかけて指導を継続していく。(通年) ②昨今の SNS 上で起こる事件に鑑み、生徒の情報モラル・リテラシー教育、発信力強化の実践や、タブレット端末の適切な使用や、SNS の正しい使い方、オンライン学習の適切な進め方についての指導を年間 10 回以上展開する。(通年) ③小中合同で、児童生徒も交えた朝のあいさつ運動を計画、継続して実施し、気持ちの良いあいさつを意識づけていく(通年) ④生徒主体による活動を通した環境整備による、内発的な規律遵守、美化意識の醸成をする。老朽化した施設設備を、段階を追って修繕していく中で、愛校心を高め、生徒の平方プライドをさらに深めていく。(通年) 【C】 ①いじめアンケートで生徒の状況を確認し、対応する。(通年) ②「越谷市授業改善・学校生活アンケート」における、「8. 学校の決まりを守って生活していますか」の項目における、肯定的回答 ③「越谷市授業改善・学校生活アンケートにおける「11.先生は、あなたのよいところを認めてくれていてと思いますか。」における肯定的回答 ④「7.あなたの学級は、落ち着いて学習できますか」における肯定的回答
7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・授業の前に学習用具をそろえる ・時間を守る ・体育授業の補助運動の統一 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 昨年度1年間、「授業の前に学習用具をそろえること」「時間を守ること」「体育授業の補助運動の統一」の3点については、教室に掲示することによって、生徒にも意識づけを図ってきた。概ねできているが、学校生活の根幹にかかわる事なので今年度も継続して行っていく。

7	学習規律の共有化	【P】 ① 定期的に小中一貫教育会議の開催。小中の共通の取り組み内容を再度確認し、小中で連動した指導ができるよう共通理解を図る。 ② 生徒指導部で作成した「スタートライン」を令和 5 年度の課題を洗い出して重点項目を設定し、丁寧に時間をかけて指導を継続 ③ <u>規律に関わる点検活動を生徒主体で実施し、意識の向上</u> ④ 生徒の情報モラル・リテラシー教育、発信力強化の実践やオンライン学習の適切な進め方についての指導 ⑤引き続き小中共通の「授業の前に学習用具をそろえること」「時間を守ること」「体育授業の補助運動の統一」の3点を身につけさせ、折に触れた指導 【D】 A ① 定期的に小中一貫教育会議を行い、小中の共通の取り組み内容を再度確認し、小中で連動した指導ができるよう職員で共通理解を図る。(通年) B ② 生徒指導部で作成した「スタートライン」(学習や生活の決まり事)を用いて、令和 5 年度の課題を洗い出して重点項目を設定し、年度当初に行う読み合わせの中で、生活規律を意識させるとともに、1つ1つ丁寧に時間をかけて指導を継続していく。【No.6 再掲】 C ③ 生徒に根付いている授業評価を継続し、さらなる意識の向上を図る。(通年) <u>学習規律に関わる点検活動を生徒主体で実施し、意識を向上させる。</u> D ④ 昨今の SNS 上で起こる事件に鑑み、生徒の情報モラル・リテラシー教育、発信力強化の実践や、タブレット端末の適切な使用や、SNS の正しい使い方、オンライン学習の適切な進め方についての指導を年間 10 回以上展開する。【No.6 再掲】 ⑤ 引き続き小中共通の「授業の前に学習用具をそろえること」「時間を守ること」「体育授業の補助運動の統一」の3点を身につけさせ、年度当初に指導を行うとともに、見届け、折に触れた指導を行う(通年) 【C】 ①管理職による授業参観における確認。授業前の学習用具の準備や、時間通りに授業を始めるなど、学習規律が整っているかを確認、毎時間必ず実施を目指す。(通年) ②⑤「スタートライン」の内容を、生徒指導部会で再度確認し、本校の現状や時代の流れに即して内容を改善する。(年度当初、新学期始め) ③各授業後に行う、授業評価を帰りの会で発表し意識の向上を図る。(通年) ④情報モラルについて、教師からの指導と生徒によるボトムアップの取組を行う。(通年)
8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)	A <u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> B ・学校の定期テスト期間に合わせ、小学校も家庭学習等の強化週間を設ける。 C D

8	家庭学習の統一化（家庭との連携）	<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 昨年度生徒へのアンケート「継続的に家庭学習をすることができている」の項目で、肯定的な結果をさらに伸ばす必要があることが分かり、家庭学習の定着化が課題であった。定期テスト前の「おぎなえ VA！」の継続、生徒中心の家庭学習キャンペーンを工夫し、学年だより等による啓発活動の実践を行っていく。 【P】 ①家庭学習に取り組むための手段のシラバスへの記載と、授業中における定期的なシラバスの確認による、「予習→授業→復習」のサイクルの確立。 ② 家庭学習ノートの提出と教師からのフィードバックによる、家庭学習の取り組み方の確認と継続実施の意識づけ。 ③ 家庭学習強化期間の設定、実施。 【D】 ① <u>AIドリルを活用し、家庭学習の充実を図る。(通年)</u> ②-1 家庭学習の必要性について子供を交えて考えさせる機会を設ける。(年度当初) ②-2 家庭学習ノートの提出方法を、より効率的かつ効果的に行い、担任や学年職員からの指導を充実させる。(通年) ②-3 <u>よりよい家庭学習のノートを掲示し、勉強の仕方を生徒同士で気づきあう。(通年)</u> ③家庭学習強化期間を定期テスト前の期間に位置づけ、生徒会など生徒自身からも呼びかけていくことで、今後も自学自習の習慣化を図る。(通年) 【C】 ①担任や学年職員、教科担当による、家庭学習ノートやAIドリルの定期的なチェックを通して、継続的に家庭学習をすることができているかを見取る。学校評価における「継続的に家庭学習をすることができている」の肯定的回答 ②③家庭学習強化週間(定期テスト前後 2 週間)	A
			B
9	各種学力調査の分析	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・国語、算数とも活用の問題に課題が見られる。 ➡8月に小中合同の教科会を行い、各教科共通して「書くこと」についての抵抗感がある傾向があるとの分析を行った。 ・国語、数学、英語に限らず、全教科共通して「書く活動」を設けることで、書く力を高め、各教科にも応用できる力をつける。 ③「コバトンのびのびシート」の配付、活用をする。 ・3学期に「つけれ VA！」を実施する。(国語、数学の基礎的な学力を身に付けさせると同時にそれらを活用させる問題に取り組み、その後生徒同士で教え合う活動を実施) ・教科会、学年会を活用し、教職員全員で分析と課題解決の方策を策定する。 ・各教科の工夫・改善については【No.4】を参照	C
			D

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・国語、算数とも活用の問題に課題が見られる。 ➡8月に小中合同の教科会を行い、各教科共通して「書くこと」についての抵抗感がある傾向があるとの分析を行った。 ・国語、数学、英語に限らず、全教科共通して「書く活動」を設けることで、書く力を高め、各教科にも応用できる力をつける。 ③「コバトンのびのびシート」の配付、活用をする。 ・3学期に「つけれ VA！」を実施する。(国語、数学の基礎的な学力を身に付けさせると同時にそれらを活用させる問題に取り組み、その後生徒同士で教え合う活動を実施) ・教科会、学年会を活用し、教職員全員で分析と課題解決の方策を策定する。 ・各教科の工夫・改善については【No.4】を参照

9	各種学力調査の分析	学校の分析結果 【国語科】 【P】【D】 (1)「話すこと・聞くこと・書くこと」に関しては少しずつ力がついていいると考えられる。今後は、国語科だけでなく全教科を通じて「話す・聞く、書く」活動を設定し、書く力を継続して育成していく。 (2)「よみとれVA！」を通して、文法、文節、敬語といった知識の定着を図り、読解力の育成につなげる。 A 【数学科】 【P】【D】 (1)全体的に基礎基本の定着を図り、学力の底上げを図る。 B (2)計算に関しては、授業や計算力コンテストで計算力の向上を図り、前年度より平均値が向上した。本年度も継続して取り組ませていく。 C (3)授業やつづれVAを通してデータを読み取る力を育成し、苦手分野の等式変形、一次関数、図形の問題にも対応できる力をつけさせる。 D 【英語科】 【P】【D】 (1)学習形態を工夫し、授業内で英語を発話する機会を設けることで「話すこと(発表・やりとり)」の力と自信をつけさせる。 (2)教科書以外の英文も活用しながらリスニング力を育成していく。 (3)正しい英文を書く知識と技能が未定着であるため、「英文を書く」問題を苦手とする生徒が多い。語彙や英文法といった基礎基本の定着を図るとともに、作文指導を継続して行う。 【社会科】 【P】【D】 (1)地理分野・歴史分野ともに基礎基本の定着を図る。 (2)授業以外に、つづれVAやよみとれVAを通して、学習内容をまとめたり、データを読み取る力を伸ばす。 【理科】 【P】【D】 (1)物理分野、化学分野の苦手意識が高いので、実験や実演等、体験から学ぶ機会を設定する。 (2)計算のつまづきに対しては、学習アプリを活用して個々に対応していく。
10	ねらいを定めて条件に応じて各活動	ブロックでの共通内容・取組内容など ・すべての教科、行事の振り返りで条件に応じた書く活動の実践 ・朝学習「つづれVA！」の実施 A 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 B 教職員の昨年2学期学校評価では、「積極的に取り組めたか」については、4段階評価で 3.2 と高い数値であった。特に週1回取り組む「つづれVA！」実施は、教職員から、意義のある取組であるという評価を得た。各教科でこの実践を活かし、さらに系統的に考え、それを自分の言葉で書く力を高めていきたい。一方で生徒は、書く力がついていいる。越谷市授業改善・学校生活アンケートの「2.授業では、理由をつけて自分の考えを話したり、書いたりしていますか」における「あてはまる」と回答した生徒の割合は他の項目より高く、これまでの研究の成果が伺える。以上のことから、新年度転入職員にも、取組の趣旨・内容について伝え、計画的に継続していく。今後も書くことの観点を意識させ、授業の振り返り、まとめとして、自分の言葉で書く活動に重点を置き取り組めるよう教科会で確認をしていく。 C D

10	ねづいを定めて条件に応じて各活動	A B C D	【P】 ①朝学習の時間や授業における、書く活動の継続。「つづれ VA!」の継続と、自己肯定感をさらに育むことを意図した「つづれ VA!」のワークシートの作成。 ②授業の「学び合い・高め合い」の場面や「振り返り」の場面において「書く活動」の意図的な設定。これを受け、各授業において、自分の意見や考えを記述する活動を設け、生徒の書く力と自己肯定感につなげる。 ③「つづれ VA!」と授業の関連付けによる、総合的な「書く力」の育成。 (ア)朝の10分間に行っている「つづれ VA!」を継続する。「よみとれ VA!」は市販の教材を活用し継続する。生徒に目的意識を持たせて「書く活動」を継続する。(通年) (イ)授業の「学び合い・高め合い」の場面や「振り返り」の場面において「書く活動」を意図的に設定していく。意見や感想のほか、考えの根拠となることを書いて述べたり、知識を統合的に活用する際にも書くことを取り入れたりすることで、書く力の向上と自己肯定感につなげる。(通年) (ウ)「書く活動」を取り入れた授業では、教師が生徒の書いた意見や感想に目を通し、フィードバックを行うことで、生徒の自己肯定感の向上につなげる。 (エ)「つづれ VA!」に用いられているタキソノミー「知識・理解・応用・分析・統合・評価」を指導案の該当部分に記載し、授業においても目的に応じて書く力を高めることを意識させる。(通年)
			【C】 ①「つづれ VA!」「やりとり帳」各教科の「書く活動」における文章量とその内容を、教師が適切に評価する。特に書いた内容に対して肯定的な評価を行うことで、生徒の自信につなげる。 ②県学力学習状況調査における、国語及び英語の「話すこと・聞くこと、書くこと」、「書くこと」に関する問題の正答率(目標県平均以上) ③全国学力学習状況調査における、生徒質問紙の「(53)国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか」の回答(目標県平均以上)

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析		ブロックでの共通分析結果等 3校とも、15項目すべてにおいて肯定的な回答(4・3)が目標値を超える結果となっている。小学校と中学校の接続がスムーズにでき、学年が上がるにつれ肯定的な回答の率が低下するといった様子は見受けられなかった。
		A	学校の分析結果 ・15 項目ほとんどの質問において肯定的な回答であったが、その中でも、【「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」】の回答に課題があったため、研修担当を中心に学級・教科ごとに分析を行い、改善の方策を見出す。 ・「授業で学んだことを他の学習に生かしていますか。」「自分にはよいところがありますか。」「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「の 4 項目が肯定的な回答の目標値を下回っている。昨年度のアンケート結果から、生徒の「平方プライド」の意識は高まっているというアンケート結果があるが、今後はさらに、一人一人の抱える不安や困り感にも対応し自己肯定感を高めていく必要がある。学級と教科での励ましと声かけだけでなく、生徒指導部や教育相談部会とも連携して、主体的に学び自己有用感を兼ね備えた生徒の育成に取り組む。
		B	
		C	
		D	

13	自己肯定感を授業の中で高める取組	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・教師による称賛(思考の過程、取組の状況、工夫したノート記述等) ・自他の考えのよさの発見(学び合いの工夫) ・授業でできるようになったことの明確化(ふりかえりで記述) <u>学校独自の内容</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 生徒の特性を把握するための心理テスト「hyper-QU」を年2回実施し、学級内での生徒の実態を客観的につかむことができた。また、越谷市授業改善・学校生活アンケートにおける「10.自分には、よいところがありますか」の項目においても、肯定的な回答が1学期、2 学期ともに目標値を達成し、自信を持って生きる生徒が育成できていると思われる。 また、校内に新たに掲示板を作成し、美術の作品を掲示した。また、余裕教室を利用した、「平方ギャラリー」において、生徒の美術作品を展示し、生徒の自信を喚起した。 【P】 A ①hyper-QUと授業改善・学校生活アンケートの結果を分析し、自己肯定感に関わる質問に否定的な回答をした生徒について職員全体で共有し、個別的な働きを行う。(通年) B ②否定的な回答をした生徒については、必要に応じてさわやか相談員、スクールカウンセラー、その他外部の専門機関と連携して、生徒の困り感を知る手立てとする。(通年) C ③生徒の作品や制作物の掲示、大会やコンクールの表彰、授業や総合学習での発表などを通して、生徒が称賛を得る機会を設ける。 ④ 【D】 ①「hyper-QU」を1学期末と2学期末に実施する。1回目の検査で学級集団内での状態を把握し、2学期以降の対応方針を立てる。2回目の検査で、対応方針の検証および修正を図る。 ②要支援に属する生徒に対しては、生徒指導部会や教育相談部会、校内研修会等で共通理解を図り、日常の言葉かけや授業、行事などにおけるアプローチを意図的、計画的に行う。 ③地区の公民館や小学校、PTA と連携し、生徒の作品を展示したり学校生活の成果を発信できる場を設ける。(通年) 【C】 ①生徒の学校評価における「平方プライドを高めることができたか」の項目において、「そう思う」「ややそう思う」回答する生徒の割合 ②越谷市授業改善・学校生活アンケート調査の「自己肯定感」の項目の数値における、肯定的な回答の割合(目標90%以上) ③今年度の不登校率の減少
14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・児童生徒の賞賛する機会を継続して設ける。 (「平方プライド賞」「いいね賞」「三愛賞」「さくら賞」) A B ④ D

14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	<u>学校独自の内容・取組</u> ・「平方プライド賞」「いいね賞」の授与 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 「気づき・考え・実行して自ら磨くプライド」をテーマに賞賛すべき生徒の行動に対して、生徒、教員、保護者、地域の方が推薦し、「いいね賞」を授与した。また、各学期の成績優秀者、学校行事の実行委員、顕著なボランティア活動を行った生徒に対して「平方プライド賞」を授与した。 生徒の「平方プライド」の意識は高まってきている。また、生徒相互に良さに気付いたり、認めたりする雰囲気醸成されてきている。さらに生徒一人一人の自己肯定感を高める必要がある。自己肯定感の低い生徒の高揚とともに、中位の生徒のさらなる高揚を目指す。 A B C D 【P】 ① 市授業改善・学校生活アンケート、hyper-QU等引き続き実施し、自己肯定感に関わる質問に否定的な回答をした生徒について職員全体で共有 ② 平方プライドを高めるために、積極的に賞賛の機会を設け、学校や学年学級への所属感を深める 【D】 ① 市授業改善・学校生活アンケート、hyper-QU等引き続き実施し、自己肯定感に関わる質問に否定的な回答をした生徒について職員全体で共有する。(通年) ② 平方プライドを高めるために、積極的に賞賛の機会を設け、学校や学年学級への所属感を深めていく。(通年) 【C】 ①生徒の学校評価における「平方プライドを高めることができたか」の項目 ②越谷市授業改善・学校生活アンケート調査の「自己肯定感」の項目の数値 ③保護者の学校評価における、「お子様は自分のことを大切にしている。」での肯定的評価
----	---------------------	---

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
15	(行事・学習・作品など) 児童生徒間の交流	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・部活動見学の実施 ・吹奏楽部の小学校でのコンサートの実施 ・新入生説明会における交流活動(「かたれVA!」)の実施 ・生徒会生徒と6年生の語る会の実施 ・硬筆作品の交流 <u>学校独自の内容</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 部活動ごとの各学校でのあいさつ運動を実施した。入学説明会で生徒が作成した動画で学校紹介をしたり、部活動の紹介を行った。 【P】 ① 小中間の児童生徒の交流の機会を年間計画に取り入れ、実行 ② 近隣幼稚園、地区センターとの交流を積極的に行い地域に情報発信 ③ 小中一貫教育実践の深化・統合を図り、教師同士、子供同士の交流の常態化 【D】 ①9月の学校公開時における、部活動見学を実施する。また、2月に行われる新入生説明会で交流活動(「かたれVA!」)を実施する。 ②近隣幼稚園との交流を再開させ、園児と生徒の交流 ③ 入学説明会の時、生徒会生徒と6年生の語る会の実施をする。 ④ 児童生徒の作品の交流を行い、各学校に展示。公民館における展示をする。(通年)

16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・夏季合同研修会の実施 ・相互授業参観の実施
		<u>学校独自の内容・取組</u> 【P】 A ① あいさつ運動、合同引き取り訓練、出前授業の計画的な実施を通して、小中間の情報交換を行い、中1ギャップの解消を図る。 B ① 小中一貫管理職会議を各学期 2 カ月に 1 回開催。 B ② 小中合同生徒指導部会を学期 1 回開催し、組織としての生徒指導のあり方を小中で共有。 C ④ 小中一貫教育実践の深化・統合を図り、教師同士、子供同士の交流を常態化。 【D】 D ① 引き続き、あいさつ運動、合同引き取り訓練、出前授業の計画的な実施を通して、小中間の情報交換を行い、中1ギャップの解消を図り、希望を持って中学校に入学できる素地を作る。(通年) D ② 小中一貫管理職会議を各学期 2 カ月に 1 回開催し、児童生徒の交流活動の場面を創出する。(年 5 回) D ③ <u>小中合同生徒指導部会を学期 1 回開催し、組織としての生徒指導のあり方を小中で共有する。(新規)</u> D ④ 小中一貫教育実践の深化・統合を図り、教師同士、子供同士の交流を常態化していく。(通年)

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
17			<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・情報共有システム「Web見守る帳」の実施 ・3校合同協議会(年1回)の実施。
			<u>学校独自の内容</u> 【P】 A ホームページ、LINE グループによる地域・学区の安全に係る情報共有システム「Web 身守る帳」の活用の幅をさらに広げ、情報発信をしながら、学校の様子を知らせるとともに、地域の安全情報の共有を行う。 B 【P】 C ① ホームページ、保護者連絡アプリ「すぐる」の積極的活用 C ② LINE グループによる地域・学区の安全に係る情報共有システム「Web 身守る帳」の活用の幅をさらに広げ、情報発信をしながら、学校の様子を知らせるとともに、地域の安全情報の共有を行う。 D 【D】 D ① ホームページによる学校の毎日の情報発信や、すぐるを活用して生徒への配付文書を保護者に添付し、情報共有をさらに図る。 D ② 「Web 身守る帳」による安全情報の共有。避難訓練での活用。互いに情報発信をし合う。(通年)

(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
18			<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・中学校の教員が小学校で出前授業を実施
		A	<u>学校独自の内容</u>
		B	【P】 ① <u>苦手教科(数学・英語)、体力向上(体育)</u> などの教科で小学校への出前授業。 ② 高校教員による進路学習会や越谷北高校と連携し出前授業の実施。
		C	【D】 ① <u>苦手教科(数学・英語)、体力向上(体育)</u> などの教科で小学校への出前授業を行う。(3学期予定) ② <u>高校教員による進路学習会や越谷北高校と連携し、出前授業を実施する。(生物部をはじめとし、他の部活動等)他の学校と交流する。</u>